



「インタビュー」

車椅子に乗ったレーサーの ”自分“にしかできない挑戦

レーシングドライバー／Pioracing 代表

長屋宏和

長屋さんは、フォーミュラカー^{*1}のレーサーとして将来を期待されていた22歳のとき、レース中の事故で頸椎^{けいつゐ}損傷の大けがを負いました。車椅子での生活を余儀なくされ、それでも、長屋さんは決してあきらめませんでした。強い意志と家族や仲間の応援で、サーキットに復帰。その一方で、車椅子を使う人のための衣料ブランドを立ち上げました。当事者の視点でデザインされた衣料は今、全国の車椅子利用者の注目を集めています。

F1レーサーをめざして

編集部 長屋さんがレーサーをめざしたきっかけを教えてください。

長屋 中学一年のとき、幼なじみのお母さんに「今年、鈴鹿サーキットでF1があるから行ってみる？」と誘われたんです。そのころ、私立の小学校から友達のいない公立の中学校に進学して、いじめに遭い、登校拒否になっていました。それで幼なじみとそのお母さんが気をつかってくれたんですね。

初めて見たF1レースには、「すごい！」と圧倒されました。目の前を駆け抜けるスピードと、エンジン音の迫力に興奮して、「僕もここで走りたい」と、誰より速く走る自分の姿をイメージしていました。

編集部 その後、レースの世界に飛び込んだんですね。

長屋 まず、中学生でも乗れるカート^{*2}に挑戦しました。反対を覚悟で母に頼んだら、「やりたいならやりなさい」と。僕は、歯科医だった父親を3歳のとき

*1: レースのために設計・開発された車。レースには、F1を頂点に様々なカテゴリーがある。

*2: 時速150kmで走ることもある、小型の競技用車両。遊園地のゴーカートは遊戯用の別物。



F3マシンを操る長屋さん (2002年)

ながや・ひろかず

1979年東京生まれ。14歳でレースを始め、F3にステップアップするも、2002年のレースで大クラッシュ。頸椎損傷四肢麻痺の重度障がい者となる。04年、不可能といわれていたカートレースに出場し完走。05年、主にチェアウオーカー（車椅子利用者）のためのファッションブランド piroracing を立ち上げる。

長屋宏和オフィシャルサイト <http://www.piroracing.com>

に亡くしています。その父もレースをやっていたと、初めて聞かされました。それから中学・高校時代は、週末になるとカートに乗っていましたね。

編集部 カートは趣味で走れても、フォーミュラは才能のあるレーサーしか生き残れない世界ではありませんか。

長屋 19歳のとき、フォーミュラカールのレーサーを育成するフランスのスクールに留学しました。日本からは100人以上が応募して、フランスに行けたのは2人。そこで学んでから、フォーミュラドリームのカテゴリーでレースに2年間参戦して、次の年、F3のチームにドライバードライバーとして採用された。F3は、F1への登竜門のようなカテゴリーです。

事故で頸椎損傷の大げが

編集部 順調にステップアップしたその年、事故が起きてしまった。

長屋 僕自身は、事故のことをまったく覚えていません。病室のベッドの上で目を覚ましたら、レースから2

週間も経っていました。声は出ないし、体は動かない。自分に何が起こっているのか、分からなかった。

母に、声は出ないけど口だけ動かし、どうしてここにいるのかと聞くと、「レース中の事故で病院に運ばれて、動けない体になってる」と。その時は、体が動かないことよりも、翌週のレースに出られないことのほうがショックでした。

編集部 げがの深刻さを知ったのは？

長屋 入院中は毎日、母や妹、仲間がお見舞いに来て、「またレースに戻れる」と励ましてくれました。その言葉を信じてつらいリハビリに耐えていたんですけど、3か月経っても体が動かない。左手首が少し曲げられるようになったぐらいで…。

担当の先生に、「いつになったら歩けるようになって、レースに出られるのか？と聞くと、「今の医療では治せない。一生、車椅子の生活になります」と。その答えを聞いたときは、「終わった」と思いました。

その夜、幼なじみがお見舞いに来ま

した。イライラしていた僕が、「どうしてみんなは俺をだましてたんだよ」と問い詰めたら、「俺は、治らないなんて言葉は信じない。お前ならきっとまたレースに戻るはずだ」と。

彼のその言葉を聞いて、すごく申し訳なく思いました。周りのみんなは前を向いているのに、僕は目の前のことしか見えていなかった。先のことなんて誰にも分からない。一年後か、十年後かもしれないけれど、絶対にレースに復帰してみせる。あきらめるのではなく、前向きにがんばろうと思えたんです。

アメリカでのリハビリ

編集部 アメリカでもリハビリをされたとか。

長屋 アメリカでは「何がしたい？」と聞かれて、「車を運転したい」といったら、「やってみようか」と。日本では、僕の障がいだと運転はできないといわれていたので、「大丈夫か？」と思いましたが（笑）。空き地で運転をして、リハビリの技師が僕の動きを見て、車を改良してくれました。技師が自分の

引き出しから僕に必要なもの、僕が運転できる方法を選んでくれるんです。

編集部 長屋さんの状態に合わせて方法を考えてくれる。それはありがたいですね。

長屋 僕と同じ障がいを持つカークさんとの出会いも大きかった。これも日米の違いですが、日本は、自分でできることは、時間がかかっても自分でやりなさいという考え方です。でも、カークさんは「自分でやることも必要だけど、一日は24時間と決まっているんだから、時間をどう有効に使うかが大切だ」と。一人で風呂に入って、トイレを済ませ、着替えをしていたら、朝から昼までかかってしまいます。ヘルパーさんを頼んで、その分の時間を、仕事や自分のやりたいことに使ったほうがいいですね。

編集部 アメリカでの体験で、レースへの思いも強くなったのでは？

長屋 日本に戻ってから、ハンドカーブという指で操作するカーブがあることを知って、レース復帰が現実のもの

になってきました。ただ、僕は指が使えないので、そのままでは走れません。それで、レースでお世話になった方たちに、手をハンドルに固定して、手を曲げる動きでアクセルとブレーキを操作する専用のマシンを作ってもらったんです。

編集部 そのマシンでついにレースに復帰。怖くはなかったですか？

長屋 怖さはなかったです。レースはやっぱり楽しいですよ。当然、昔と今では体の動きが違いますから、同じようには乗れません。昔は誰よりも速く走ることがレースの魅力でしたが、僕を応援してくれる人のためにも、無事完走することに目標が変わりました。

自分の好きな服を着たい

編集部 レース復帰と同じころに、車椅子用の服も作り始めました。

長屋 最初は、自分が「こういう服が欲しい」と思っただけで、仕事にしようなんて思ってもいませんでした。入

院中は気になりませんでした。外に出るようになって、「どうしてこんなグサイジャージしか履けないんだろ。ジーンズが履きたいよな」と思っただんです。

でも、ジーンズは、お尻やポケットの縫い目が褥瘡の原因になってしまふ。病院でも、ジーンズは生地が硬いから履かない方がいいといわれました。股上が浅い分、履いたらお尻が出ちゃうとか、見た目の悩みもあります。

編集部 確かに、車椅子用のおしゃれな衣料は見かけませんね。

長屋 それで、モードフィッター^{※4}の仕事をしている母親にデザインを伝えて、ジーンズを直してもらったんです。30本ぐらい作ったのかな。ようやく、「これならOK」というものができたときに、これって僕だけじゃなくて、車椅子の人みんなに必要なものかも：と気付いて、「ピロレーシング」というブランド名で販売を始めました。

編集部 ジーンズのほかに、様々な衣料を提案されています。

長屋 ブランドを立ち上げた2005年に、横浜の赤レンガ倉庫でファッションショーを開く話をいただいて、いろんな服を出したいなど。でも、男性の気持ちは分かるけど、女性の気持ちは分からない。

思い付いたのは、女性だったらウエディングドレスを着たいという気持ちも同じだろうと。車椅子に座ったまま楽に脱ぎ着ができるようにセパレートにして、座っていてもドレスのふわっとした部分がつぶれてしまわないようにデザインしました。



ファッションショーで発表された長屋さんデザインのウエディングドレス

※3: 体重で圧迫された場所の血流が悪化し、皮膚にただれや傷ができること。床ずれ。

※4: 既製服のバランスを崩さず、その人に合わせてサイズなどを直す専門家。

piroracing
「ピースマイルジーンズ」
シリーズ

1000種類もの生地から選りすぐって、軽い履き心地に仕上げられています。お尻部分は一枚布で縫い目はなく、ファスナー部分は導尿のため股まで長く取ってありますが、カモフラージュのステッチでそれとは分からないようにデザインに。ほかにダメージ加工を施したタイプやチノパンもあります。



雨の日でも外出しやすいように作った車椅子レインコート・雨ポンチョ

お問い合わせ

(株)アトリエロングハウス内
ピロレーシング事業部

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 1-62-7-206

TEL 03-6276-1418 FAX 03-6276-1419

営業時間 10～19時 定休日 日・月曜、祝日

長屋さんがデザインした
座ったままでも履きやすい靴下
「ピロックス」をプレゼント!



5名様

※デザイン・色は
写真と異なる場合
があります。

本誌綴じ込みハガキにて
ご応募ください。

あきらめずに方法を探す

編集部 実際に、長屋さんのドレスで結婚式を挙げた人も？

長屋 もう20組近くいらっしやいますよ。花嫁さんだけでなく、ご両親も「車

椅子の生活になって、ウエディングドレスを着られるなんて思ってもみなかった」と喜んでくださいます。成人式や入学式のために振袖も作って、同じように喜ばれていますね。
そういう言葉を聞くと、もつとがらばろうと思います。自分自身が車

椅子の生活になって初めて、服が着づらいことや、道に段差が多いことに気付きました。それを、車椅子だから仕方ないとあきらめてしまうのではなく、何か方法を探して解決していきたいですね。

編集部 今後の目標は？

長屋 市販されている衣料品を、車椅子に乗っても違和感なく着られるように直すリフォームも手がけています。車椅子だからとおしゃれをあきらめている人たちに、自分が着たい服を自由

に選ぶ楽しみを伝えていければと思っています。
それから、8月30日にツイインリンクもてぎで開催されるカートレースに出場予定です。ぜひ、観に来てくださいね。

編集部 レーサーが車椅子生活を宣告されたことは、絶望にも等しかったはず。でも、長屋さんは挑戦を続け、同じ悩みを持つ人たちへの発信も始めました。どんな状況でも、自分らしく生きることができていることを教わったように思います。今後の活躍を期待しています！

※5: 栃木県茂木町にある自動車レース場。